

表 3-2-2.5 トラップによる捕獲地点

No.	捕獲日	捕獲地点	種類	周辺環境
1	10月17日	No.23	タイワンスジオ	住宅街、林
2			タイワンスジオ	
3	10月17日	No.24	タイワンスジオ	住宅街、林
4	10月17日	No.27	タイワンスジオ	林、住宅街
5	10月31日	No.30	ヒメハブ	林、川
6	11月21日	No.11	ヒメハブ	林、農耕地
7			ヒメハブ	
8	12月9日	No.30	タイワンスジオ	林、川



図 3-2-2.19 タイワンスジオ及びヒメハブの捕獲地点





図 3-2-2. 20 タイワンスジオの捕獲状況

### ③ 捕獲時期

捕獲地点No. 23、24、27での捕獲はトラップ設置後1回目の点検での捕獲であった(表3-2-2. 6)。No. 23 では一度の点検で2 個体が捕獲されていた。また、No. 30 での捕獲はトラップ設置から2ヶ月が経っているが、一般的にタイワンスジオの活動が低下するであろう冬場での捕獲であった。

ハブやタイワンハブの分布調査では、それらに対して捕獲率の高いハブトラップを一地点につき2~3ヶ月を目途に設置し、捕獲の有無を確認している。本試験で使用した新規トラップも2ヶ月以内に捕獲ができたこと、既存のトラップよりCPUEが高いことから有効な捕獲手法として使用できる可能性があると考えられる。

表 3-2-2. 6 タイワンスジオの捕獲日

No.	設置日	捕獲日	捕獲地点
1	10月10日	10月17日	No.23
2			
3		10月17日	No.24
4		10月17日	No.27
5		12月9日	No.30

#### ④ 捕獲個体の計測値

捕獲されたヘビ類の計測値を表 3-2-2.7 に示す。タイワンスジオについて、5 個体のうち 3 個体が頭胴長 100 cm 未満の個体であり、第 1 期試験（表 3-2-2.8、大型トラップによる捕獲）と比べて小型個体の捕獲が多い結果となった。しかし、飼育下での捕獲試験では頭胴長が 150 cm 程度の個体も捕獲されているため、その要因はトラップによるものではないと考える。

表 3-2-2.7 ヘビ類の計測値

No.	捕獲日	種類	性別	頭胴長(cm)	尾長(cm)	体重(g)
1	10月17日	タイワンスジオ	雌	88.0	24.7	148.5
2	10月17日	タイワンスジオ	雄	88.9	26.2	153.1
3	10月17日	タイワンスジオ	雄	91.1	26.0	185.7
4	10月17日	タイワンスジオ	雄	104.3	29.6	273.3
5	10月31日	ヒメハブ	雄	42.5	9.4	77.2
6	11月21日	ヒメハブ	雄	45.5	10.6	90.5
7	11月21日	ヒメハブ	雌	51.8	10.0	157.8
8	12月9日	タイワンスジオ	雄	136.6	37.7	487.8

表 3-2-2.8 第 1 期試験で捕獲されたタイワンスジオの計測値

No.	捕獲日	種類	性別	頭胴長(cm)	尾長(cm)	体重(g)
1	5月2日	タイワンスジオ	雌	145.6	37.9	480.9
2	5月2日	タイワンスジオ	雄	145.0	41.3	620.5
3	6月24日	タイワンスジオ	雄	65.7	19.0	76.1
4	6月24日	タイワンスジオ	雄	131.0	36.4	489.4

#### c-3 その他

##### 【点検に関する知見】

本試験でのトラップ点検はラットによる餌（ドッグフード）と水の消費量が不明であったため、1 週間おきに実施した。マウスをベイトとした場合は一般的には 2~3 週間おきの点検頻度で十分である。ラットをベイトとして使用する場合も点検間隔を 2 週間にすることを目標とするため、本試験で得られた点検に関する知見を以下に示す。

- ラットは試験開始時に 5 週齢のものを使用した。餌は本トラップに入る最大量の約 600 g、水は 500 mL（500 mL ペットボトル 1 本）を入れて、トラップを設置した。
- 1 週間後の点検時（ラットは 6 週齢）で、餌を 2 割程度、水を 5 割程度消費していた。
- 7~9 週齢ラットは餌を 3~5 割程度、水を 5 割程度消費していた。
- 10 週齢以降になると、水をすべて消費するラット（1~2 割）も現れた。

以上のことから、餌は 600 g あれば 2 週間は持つが、水は 500 mL では 1 週間が限界であると予想される。点検頻度を 2 週間おきにするためには、水容器を 2 個設置することが必要であると考えられる。

また、時間が経つにつれ、水容器の吸口部分を噛むラットが多くなっていった。完全に噛み切ってしまう、水容器が使用不可になる場合（1 割）もあった（図 3-2-2.21）。それらを防ぐために

は、水容器をトラップに取り付ける際、吸口のプラスチック部分はトラップ内に入らないように調節することが必要である。あるいは、他に噛めるもの（かじり木等）を入れておくことも対応策の一つであると考え。

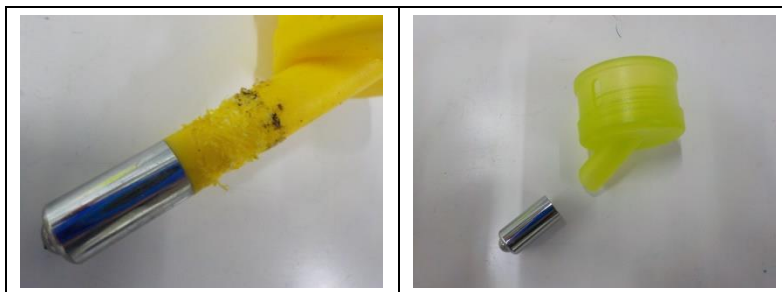


図 3-2-2.21 ラットが噛んだ水容器の吸口部分（左）と完全に噛み切ったもの（右）

### 【トラップ作製】

本試験で使用した新規トラップ（図 3-2-2.22）の作製にはかなりの時間が必要であった。トラップ本体には既存の大型トラップを用いたが、作製に必要な作業として、①仕切りを付ける、②誘導板を設置する作業があった。（以下、ラットスペースや仕切り間の距離は新規トラップ（図 3-2-2.22）の通りとする。）①の作業を省略し、且つ、ロート先端からラットスペースまでの距離を 70 cm 確保する（図 3-2-2.13D 参照）ためには、本体を大きくすることで対応できるが、100 cm 程度（ロート 18 cm+70 cm+ラットスペース 18 cm）のボックスを準備する必要があり、地面設置型のトラップとしては大きすぎるため野外での設置に適さない。よって、仕切りは付けるものとし、②の作業の省略を考えると、ロート分の 18 cm 長いボックスを準備すればよい。本体横の長さは 60 cm 程度（図 3-2-2.23）となり、実際の設置の際にも問題にならないと考える。

本体に用いるボックスには、カナディアンタッグボックス<sup>\*1</sup>No. 6 (内寸 37 cm×54 cm×18.5 cm)、No. 30 (内寸 29.5 cm×61.5 cm×14.5 cm) や、NT ボックス<sup>\*2</sup>#30 (内寸 27.7 cm×61.9 cm×15.5 cm)、#50 (内寸 36.2 cm×61.7 cm×18.5 cm) 等が使用可能であると考え。

\*1 <http://shinwa-plastic.com/index.html>

\*2 <http://www.astage.jp/>

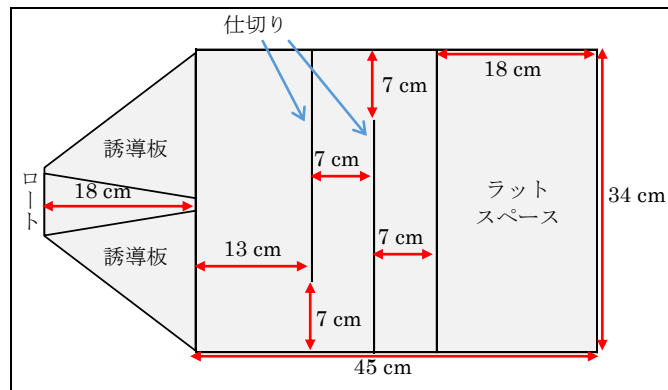


図 3-2-2.22 新規トラップの模式図

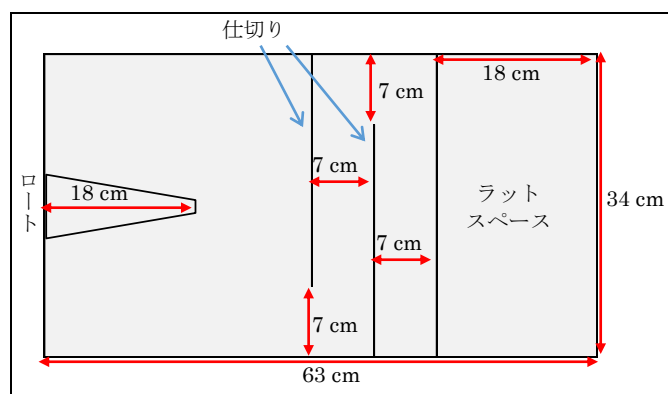


図 3-2-2.23 新規トラップの改良案

#### c-4 まとめ

本野外試験より得られた結果を以下に示す。

- 新規トラップを 1,752 TD (30 台、約 2 ヶ月間) 設置し、タイワンスジオを 5 個体捕獲した。
- CPUE (100TD あたり) は 0.285 であり、既存の大型トラップの 3 倍以上となった。



## (2) 新規トラップ（踏板式塩ビパイプ型、ゴム型、Doc 型）の開発

### a) 踏板式塩ビパイプ型、ゴム型、Doc 型の開発

#### a-1 踏板式塩ビパイプ型

##### 【コンセプト】

タイワンスジオの踏板式トラップのコンセプトを以下に示す。

- ・トラップ入口部は開放系にする（モンドリやフラップを使用しない）。
- ・2つの踏板を一定間隔離し、その両方を踏んだ時に入口部が閉まる仕組みとする（小動物の混獲を防ぐ）。
- ・非電動式とする（センサーなど電気部品は使用しない）。

##### 【トラップ構造と動作機序】

タイワンスジオの踏板式トラップは、長さ1m、内径10cmの塩ビパイプ（VU100）を2本繋いだ外形とした（全長2m、**図 3-2-2. 24** 引張コイルばねを利用した開閉式とし、市販のネズミ捕獲かご（ノーブランド）の入口構造をそのまま利用した（A）。また2つの踏板構造は、シャーマントラップ（H. B. Sherman Traps 社）の踏板構造を参考とし、それを連結させる方法で作製し塩ビパイプに内蔵した（赤両矢印の位置）。この2つの踏板を同時に踏んだ場合のみ、軸周りの回転運動が発生しアーム（B）が可動する。さらに、アームに連結したシャフト（C）が可動し、最終的に入口部のトリガー（D）が引かれトラップの蓋（A）が閉まる。

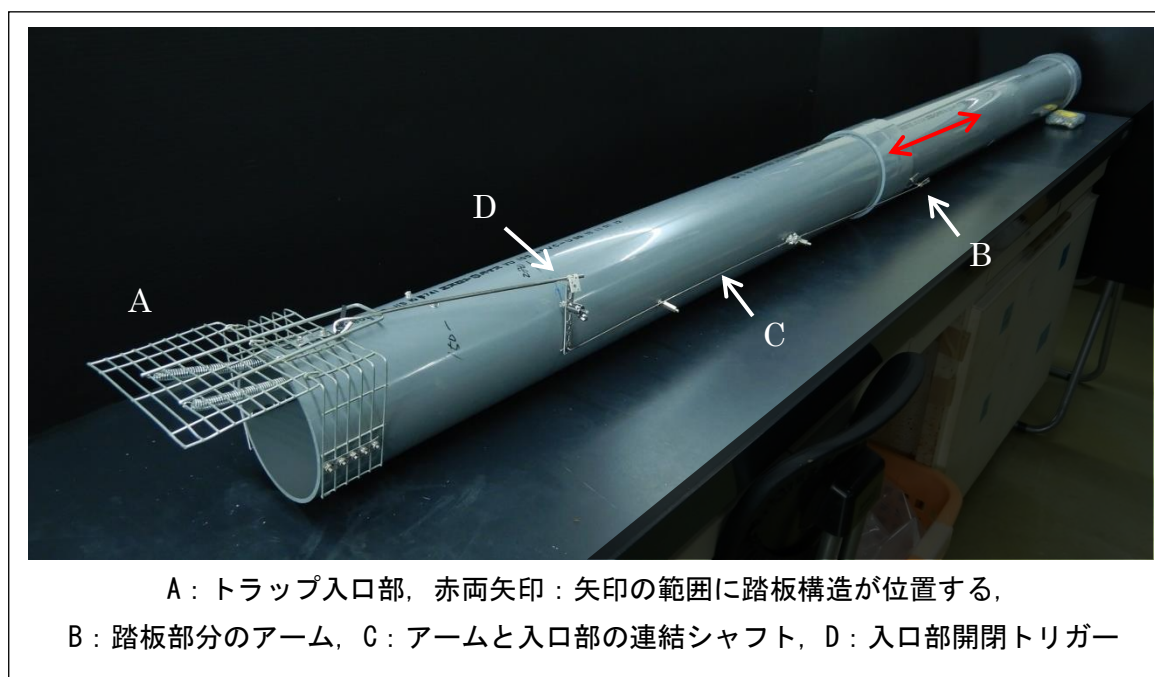


図 3-2-2. 24 踏板式トラップ外観

## a-2 グラム型

グラム型トラップは、グラムでミナミオオガシラ対策に用いられているステンレス製の円筒形トラップである。左右にフラップ式扉（φ4cm）の入口があり、中央にマウススペースが設けられている。

平成30年度は、このトラップを模倣したプラスチック製（トリカルネット、網目6mm）の改良型を作製し飼育ケージ内で試験を行った。試験では、側面からトラップ越しにマウスに咬みつこうとして入口部分に到達しない例や、入口から内部に侵入しても5cmでマウスに到達するため体の大部分をトラップ外に残してトラップ内に入らず脱出する例が観察され、課題となった。

そこで、今年度は入口を片側のみとしてもう片側にマウススペースを設け、入口からマウスまでの距離を約40cmとした改良型を作製した（図3-2-2.25）。さらに設置の際は、トラップ上面の約2/3とマウススペースのサイドをシートで覆い、入口側からのマウス臭気で誘引できるよう工夫した。



### a-3 Doc 型

Doc はニュージーランドで開発された踏み板式の捕殺わなである。対象種により大きさが異なり、沖縄県マングース対策事業では Doc200 や Doc250 を用いた捕獲試験が行われている（写真 3-2-2.1）。野外に設置する際は、混獲の発生リスクの低減や、一般人による誤操作を防止するため、箱の中に Doc を入れて固定する。今回、Doc200 を木箱に固定したヘビ用のトラップを作製した（写真 3-2-2.26）。

木箱の大きさは縦 24cm、横 40cm、高さ 26cm で、誘引餌はマウスとし、入口側の面は金網で約 3cm×6cm の入口を設けた。また、入口から侵入したヘビが踏み板に触れるための誘導用の塩ビパイプを取り付けた。

本トラップは、体の一部が踏み板に触れれば捕殺されるため、入口からマウスまでの距離を考慮する必要がなく、コンパクトな大きさに設計することが可能である。しかし、グアム型のようには樹の幹などに設置することはできず、また捕殺式のため在来ヘビ類混獲のリスクがある。



写真 3-2-2.1 Doc とその種類

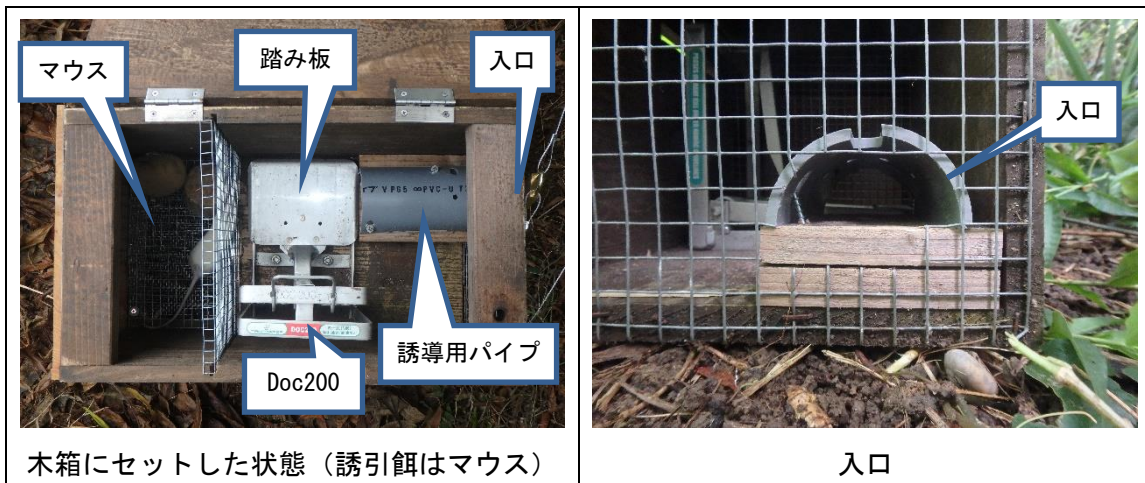


図 3-2-2.26 木箱を用いた Doc 型トラップと構造



## b) 新規トラップ（踏板式塩ビパイプ型、ゴム型、Doc 型）による野外での捕獲試験

### b-1 目的

平成 28 年より沖縄市においてタイワンスジオ捕獲トラップの改良を加えながら設置してきたが、捕獲は箱型トラップ（マウス入り）による 3 個体に留まっている（CPUE：0.04）。そのため、刺網を組み合わせたものや鳥類の繁殖を利用した巣箱なども含め、これまで様々なトラップ試験を野外や飼育ケージ内で行い、さらなる捕獲効率の向上を目指してトラップの開発・改良を行ってきた。

今年度は、これまでの調査結果を踏まえ改良を行った踏板式塩ビパイプ型トラップ（以下「パイプ型」とする）、ゴム型トラップ（以下「ゴム型」とする）、Doc 型トラップ（以下「Doc 型」とする）の 3 種について、野外での捕獲試験を行うものとする。

### b-2 調査対象地域及び調査方法

昨年度の買取り実績の中で、複数個体が得られたうるま市の洞窟や周辺住民の方にご協力いただき、洞窟出入口付近や周辺の民家、耕作地等にトラップを設置することにした（表 3-2-2.9）。また、恩納村瀬良垣においてもゴム型による試験を実施した。

パイプ型は、マウススペースを取り付けたもの（マウスあり）15 台とパイプ単独のもの（マウスなし）15 台の計 30 台とし、洞窟の出入口付近の林内や岩場近くに集中的に設置した。なお、パイプ単独のもの 2 台を洞窟の中にも設置した。また、パイプ入口にはマングースの侵入防止枠を取り付けた。設置は 7 月中旬に開始し、9 月下旬に回収した。

ゴム型及び Doc 型はパイプ型に比べコンパクトで運搬や設置が容易なため、25m メッシュを設け、洞窟の出入口付近以外にも地元の方の目撃情報を参考に民家敷地内の資材置き場や畑の作業小屋などに 1 メッシュ 1 台として広域的に設置した。ゴム型は、樹木や小屋の一部、フェンスなどに固定し、設置高は 1m 前後（0.5m～1.4m、平均 1.1m）とし 30 台を設置した。そのうちの 1 台は洞窟の中に設置した。設置は 7 月中旬に開始し、より広域的に設置するため 9 月下旬に 30 台を追加設置した。その後、10 月中旬に恩納村瀬良垣に移設するため 30 台を回収し、残りの 30 台を 12 月上旬に回収した。また、Doc 型は同エリア内のゴム型が設置されていないメッシュにおいて 10 月下旬から 12 月上旬まで 15 台を設置した。

恩納村瀬良垣では、洞窟及び周辺から回収したゴム型 30 台を 10 月中旬に設置し、12 月上旬に回収した。設置の際は、買取り個体の捕獲地点や瀬良垣区長及び地元農家の方の目撃情報を参考に、耕作地周辺や林縁に設置高 1m 前後（0.6m～1.6m、平均 1.1m）として設置した。

これらトラップの点検は週に 1 回とし、誘引餌のマウスの世話や捕獲動物の確認、記録を行った。

表 3-2-2.9 トラップの設置台数と期間

設置場所	わな種	期間	台数
うるま市 洞窟及び周辺	パイプ型	7月中～9月下	30台 (マウスあり15台、なし15台)
	グアム型	7月中～12月上	30台
	Doc型	10月下～12月上	15台
恩納村瀬良垣	グアム型	10月中～12月上	30台

b-3 結果

捕獲試験の結果を示す (表 3-2-2.10)。

洞窟の出入口付近に集中的に設置したパイプ型30台は、9月下旬までに2,235TDで捕獲がなく、すべて回収した。

洞窟の出入口付近及び周辺に設置したグアム型30台では、8月～10月にタイワンスジオ4個体が捕獲され、CPUEは0.09となった。月別のCPUEは8月が0.24と高く、9月、10月と減少した (図 3-2-2.27)。その他のヘビ類としては、タイワnhハブ5個体、アカマタ2個体が捕獲された。また、同エリアのDoc型15台では、11月にタイワンスジオ1個体が捕獲され、CPUEは0.17 (11月CPUEは0.22) となった。その他のヘビ類としては、ヒメハブ2個体、アカマタ1個体が捕獲された。

タイワンスジオの捕獲地点をみると、グアム型4個体、Doc型1個体のいずれも洞窟出入口付近で、捕獲環境は林内が4個体、石灰岩壁面が1個体であった。

また、捕獲時期を月の旬の単位でみると、タイワンスジオはグアム型で8月上旬～10月中旬、Doc型で11月下旬となった (図 3-2-2.28)。本試験中は比較的コンスタントに捕獲され、時期による捕獲数の違いはみられなかった。タイワnhハブについても、グアム型で9月上旬～11月中旬に比較的コンスタントに捕獲された。

恩納村瀬良垣に設置したグアム型30台では、1,365TDでヘビ類の捕獲はなく、マンガース1個体のみの捕獲であった。

表 3-2-2.10 ヘビ類捕獲状況

設置場所	わな種	期間	設置台数	TD	タイワンスジオ		タイワnhハブ		ヒメハブ		アカマタ		計	
					捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE
うるま市 洞窟及び周辺	パイプ型	7月中～9月下	30台	2,235	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	グアム型	7月中～12月上	30台	4,398	4	0.09	5	0.11	0	0.00	2	0.05	11	0.25
	Doc型	10月下～12月上	15台	585	1	0.17	0	0.00	2	0.34	1	0.17	4	0.68
恩納村瀬良垣	グアム型	10月中～12月上	30台	1,365	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計			105台	8,583	5	0.06	5	0.06	2	0.02	3	0.03	15	0.17

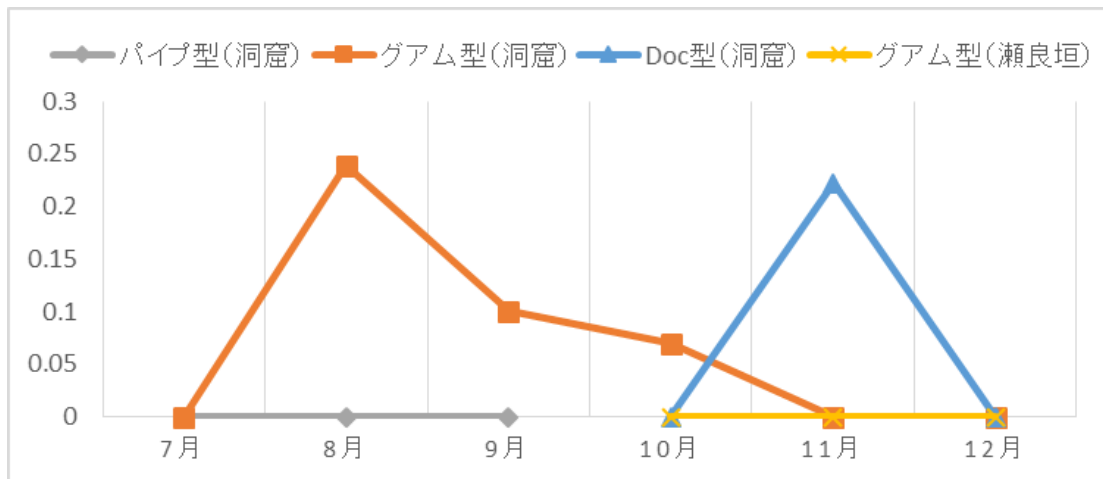


図 3-2-2.27 タイワンスジオ捕獲の月別 CPUE

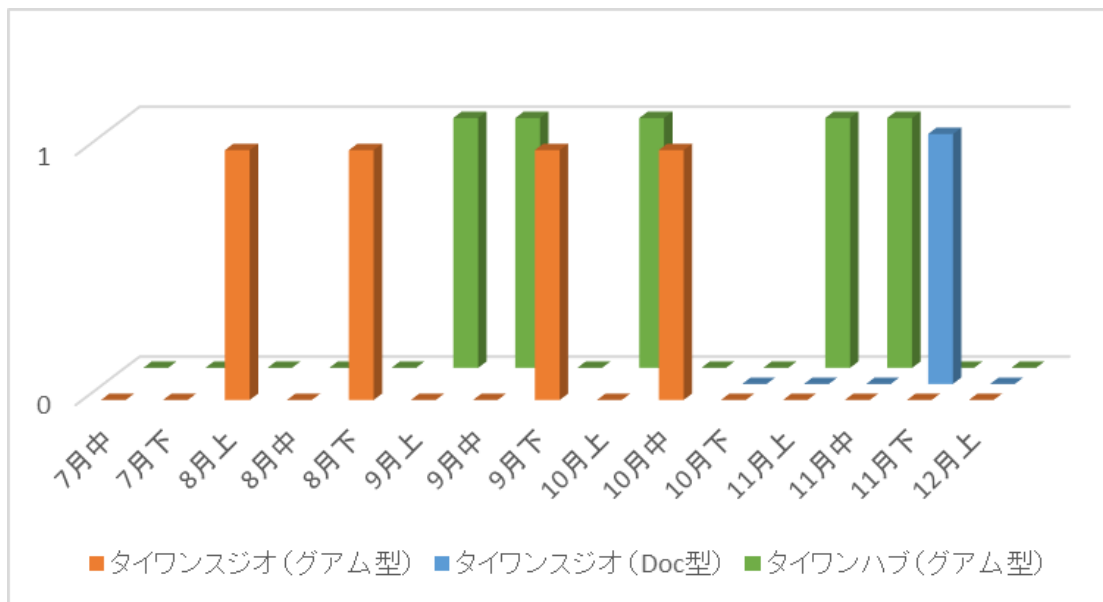


図 3-2-2.28 タイワンスジオ及び台湾ハブの捕獲時期



#### b-4 捕獲個体の計測値

本試験において捕獲されたタイワンスジオの計測値を示す（表 3-2-2.11）。

ゴム型で捕獲された 4 個体はいずれも頭胴長 1000mm 以上の個体で、最大は頭胴長 1236mm であった。また、雌雄はオス 2 個体、メス 2 個体であった。

Doc 型で捕獲された 1 個体は腐敗及び破損により計測できなかったが、全長は 163cm 程度であった。

表 3-2-2.11 捕獲されたタイワンスジオの計測値

No.	捕獲日	わな種	性別	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	体重 (g)
1	2019/8/5	ゴム型	m	1236	357	402
2	2019/8/22	ゴム型	f	1061	300	265
3	2019/9/26	ゴム型	m	1062	314	364
4	2019/10/10	ゴム型	f	1075	306	301

※Doc型での捕獲個体は腐敗及び破損により計測できなかった

#### b-5 まとめ及び今後の課題

本試験において、ゴム型で4個体（CPUE：0.09）、Doc型で1個体（CPUE：0.17）のタイワンスジオが捕獲された。ゴム型ではタイワンハブ5個体やアカマタ2個体も捕獲され、樹上を利用するヘビ類に有効なトラップであると考えられる（写真3-2-2.2）。しかし、タイワンスジオの捕獲場所は洞窟の出入口付近に限られていたことから、広域的に本種を捕獲するにはより多くのトラップを設置する必要があると考えられる。また、Doc型については今回の試験での設置台数やTDが少ないため評価が難しいが、タイワンスジオが1個体捕獲されたことから今後も捕獲を実施してわなの有効性を検証することが望まれる。

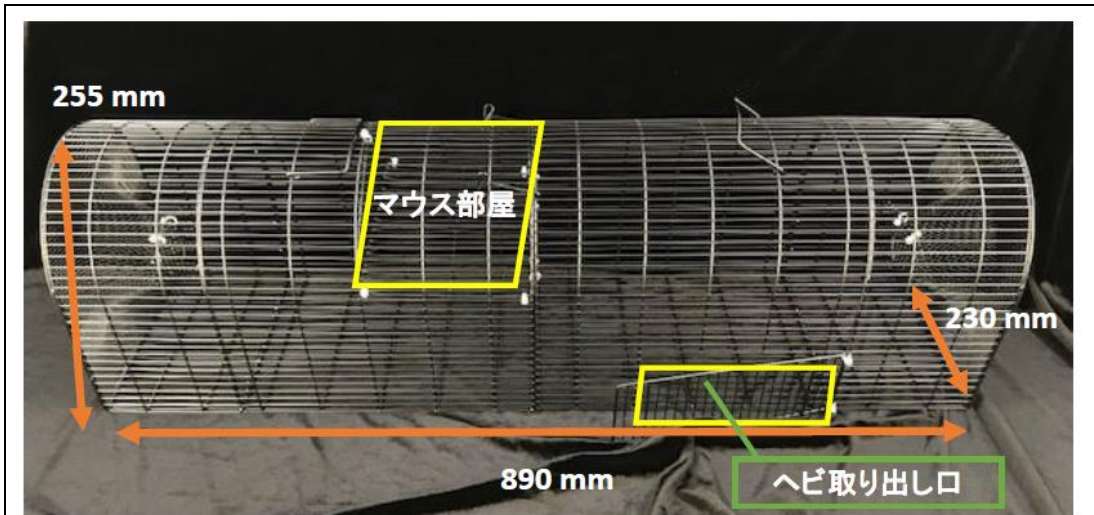
今年度作製したゴム型はトリカルネットを使用したプラスチック製で、金属製に比べ強度や耐久性が劣る。実際、本試験においてトラップを覆ったシートや本体側面を破られたものがあった（マウスに誘引されたネコによるものと思われる）。また、プラスチック製ではマウススペースの点検口の開閉部を強固に固定することが難しく、点検口からタイワンスジオが侵入しマウスを捕食していた事例があった（写真3-2-2.3）。他にも点検時にマウスがいなくなっていたトラップがあり、点検口から侵入したヘビがマウスを捕食し点検口から逃げた可能性が考えられた。そのため、今後トラップを量産して広域的な捕獲を実施するには、頑強な金属製トラップの製作を業者に依頼することも検討する必要がある（写真3-2-2.4は業者作製の試作品）。



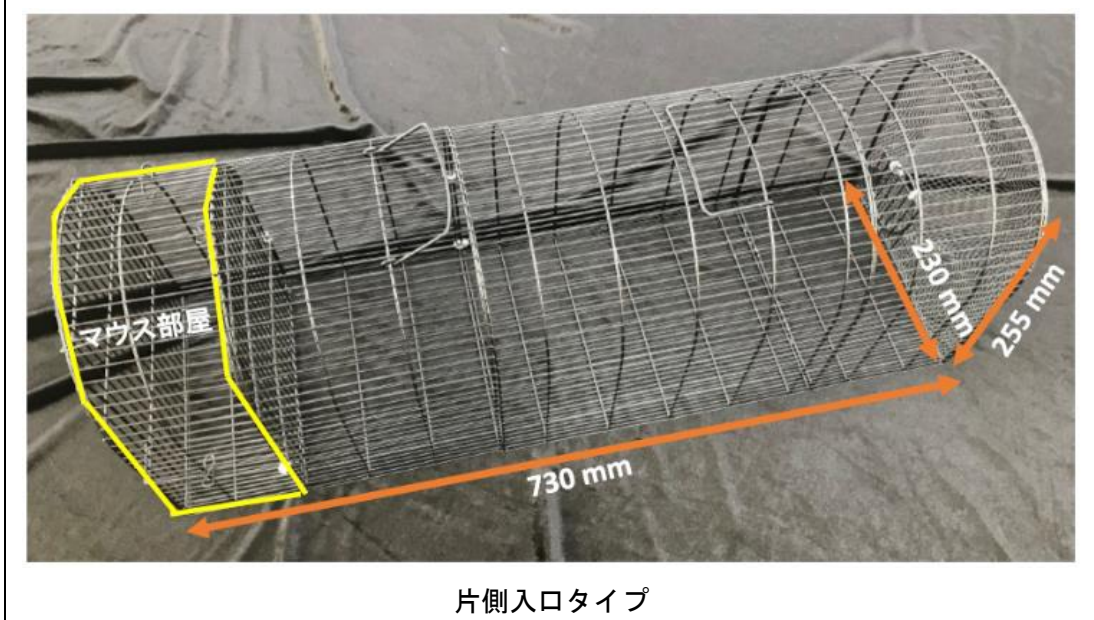
写真3-2-2.2 ゴム型によるタイワンハブ捕獲時の状況（林縁）



写真3-2-2.3 ゴム型のマウス点検口から侵入したタイワンスジオ



両側入口タイプ



片側入口タイプ

写真 3-2-2.4 業者作製の金属製グアム型の試作品



### 3-2-3. 個体買い取りの実施

#### (1) 目的

タイワンスジオの現在の分布状況や捕獲時の環境等の情報収集と消化管内容物分析における食性調査を目的として、個体の買い取りを実施した。

#### (2) 方法

##### a) 買い取り条件

昨年度と同様に、1頭5,000円とした。買い取り期間は2019年8月30日までで、100頭に達し次第終了することとした。

また、捕獲者は事業従事者として事前に登録することを条件とした（事業従事者として事前に登録することで、外来生物法施行規則から飼養等の適用除外とする）。

##### b) 広報

###### b-1 チラシの作成

昨年度と同様に、A4両面のチラシを作成した（本項巻末の図3-2-3.7）。買い取りの手順や登録方法に加え、外来生物法に係る罰則について明記した。

###### b-2 Web ページの作成

チラシに加え、同内容のWeb ページ (<https://www.okinawa-ikimono.com/sujio/>) を作成した。Web ページからも事業従事者の登録を可能とし、また、現在の買い取り数を表示することとした（本項巻末の図3-2-3.8）。

###### b-3 広報活動の開始

Web ページは2019年5月7日に公開し、チラシは5月7～10日に配布した。

#### (3) 結果

##### a) 広報

Web ページは5月7日に公開した（沖縄県環境科学センターHP、沖縄県環境部自然保護課HPにリンクあり）。5月7～10日にチラシ3,170枚を沖縄本島26市町村に配布した。配布先を表3-2-3.1に示す。各市町村については鳥獣または外来生物担当、ハブ対策担当課に配布した。また、本島北部や分布中心地域だと考えられる中部においては、図書館、博物館、公民館、自治会館に配布した。さらに、宜野座村においては、担当課のご協力により、宜野座村の全世帯（約2,500世帯）に配布していただいた。チラシ配布時に地域の方々から表3-2-3.2に示す情報が得られた。

Web ページの公開、チラシの配布以外の広報として、新聞の折り込みチラシを活用した。北部地域における捕獲従事者の登録数増加とタイワンスジオの分布状況等に関する情報を得ることを目的に、北部地域6市町村（名護市、本部町、今帰仁村、大宜味村、東村、国頭村）の約22,000世帯にチラシを配布した。

これら以外の広報として、沖縄県環境部自然保護課による本業務についてのプレスリリースが5月10日に行われ、翌11日に琉球新報に記事が掲載された。また、6月20日にテレビ朝日によ

り本業務に関する番組が放送された。

広報の種類と実施日について、表 3-2-3.1 に整理した。

表 3-2-3.1 配布先一覧

市町村	配布先	配布枚数
国頭村	世界自然遺産推進室	30
	図書館(辺土名)	20
大宜味村	建設環境課	30
	建設環境課	30
東村	図書館(平良)	20
	博物館(川田)	20
	福祉保健課	30
今帰仁村	図書館(天底)	20
	博物館(今泊)	20
	公民館(呉我山)	25
	保険予防課	30
本部町	図書館(大浜)	20
	博物館(大浜)	20
	公民館(崎本部、伊豆味)	50
	環境対策課	30
名護市	名城大学 図書館	20
	図書館(宮里)	20
	博物館(東江)	20
	公民館(喜瀬、久志、辺野古)	75
	村民生活課	30
宜野座村	図書館(宜野座)	20
	博物館(宜野座)	20
	公民館(城原、福山、松田)	75
	住民生活課	30
金武町	図書館(金武)	20
	公民館(屋嘉、伊芸、金武、中川)	100
	村民課	30
恩納村	図書館(仲泊)	20
	博物館(仲泊)	20
	公民館(宇加地、塩谷、真栄田、山田、仲泊、前兼久、富着、谷茶、南恩納、恩納、太田、瀬良垣、安富祖、喜瀬武原、名嘉真)	375
	環境課	30
うるま市	図書館(平良川、石川曙、勝連平安名)	60
	博物館(石川曙、与那城中央)	40
	公民館(天願、昆布、栄野比、川崎、西原、兼筒段、大田、川田、塩谷、豊原、高江洲、前原、東山、伊波、嘉手苅、山城、美原、南風原、与那城西原)	475
	環境課	30
沖縄市	図書館(中央)	20
	博物館(上地)	20
	自治会(八重島、中の町、山内、松本、明道、知花、登川、池原、海邦町)	225
	生活環境課	30
読谷村	図書館(波平)	20
	博物館(上地)	20
	公民館(長浜、渡慶次、高志保、上地、座喜味、喜納、伊良皆、楚辺、都屋、比謝、古堅、渡具知)	300
	産業環境課	30
嘉手納町	図書館(嘉手納)	20
	集会所(嘉手納)	25
	保健衛生課	30
北谷町	図書館(桑江)	20
	公民館(砂辺、宮城、桑江、上勢)	100
	住民生活課	30
北中城村	図書館(喜舎場)	20
	公民館(島袋)	25
中城村	住民生活課	30
宜野湾市	環境対策課	30
浦添市	環境保全課	30
西原町	生活環境安全課	30
那覇市	環境衛生課	30
南風原町	住民環境課	30
与那原町	生活環境安全課	30
南城市	生活環境課	30
豊見城市	生活環境課	30
八重瀬町	住民環境課	30
糸満市	市民生活環境課	30
計		126 3170

表 3-2-3.2 チラシの配布時に得られた情報

市町村	配布先	情報
今帰仁村	呉我山公民館	20年前に1匹捕獲したが、それ以降はなし 今は台湾ハブが多い
本部町	伊豆味公民館	10年前まではいた、4匹捕獲した 今は台湾ハブが多い
名護市	喜瀬公民館	台湾ハブが多い
金武町	屋嘉区事務所	多い
	伊芸区事務所	多い
	中川区事務所	頻繁ではないが、出る 何年か前に2mのものを捕獲した
恩納村	名嘉真公民館	2週間前に1匹捕獲した、この地域では初めて
	喜瀬武原公民館	よくいる、いるところは決まっている
	安富祖公民館	畑と山のほうによくいる
	瀬良垣公民館	最近海側のほうで目撃が多い 犬が咬まれたのが1件あった
	太田公民館	多い、民家にも出た
	仲泊公民館	多い、排水溝によくいる
	真栄田公民館	最近は見ない、下水道の工事をしてネズミがいなくなった
	宇加地公民館	最近は見ない、台湾ハブが多い
うるま市	東山区自治会	石川川のほうで1匹出た、この地域では初めて
	伊波区公民館	公園を作る前は多かった
	大田区自治会	多い、民家や空き地に出る
	川田区公民館	最近スジオをよく見るらしい
沖縄市	池原自治会	よくいる
	登川自治会	よくいる、去年2匹捕獲した
読谷村	座喜味公民館	よくいる
	楚辺公民館	基地の中に台湾ハブが多い
北谷町	喜名公民館	弾薬庫のほうでよく見る
	砂辺区公民館	何年か前に1匹出た
	桑江区公民館	桑江公園によくいると聞く

表 3-2-3.3 広報の種類と実施日

実施日	内容
5月7日	Webページの公開
5月7～10日	チラシの配布
5月11日	新聞1紙に記事掲載
5月19日	北部地域への折り込みチラシ
6月20日	テレビ放送



## b) 買い取り数

本業務では100個体を買い取った。買い取り期間終了1ヶ月前の2019年7月26日に100頭に達した。その理由として、2年連続の買い取り事業であったことと、広報（特にプレスリリース）を事業開始後すぐに行ったことが要因であると考えられる。

## c) 捕獲状況

### c-1 月別の捕獲数

月別の捕獲数を表 3-2-3.4 に示す。6月が48個体と最も多く、次いで5月の32個体、7月の20個体であった。新聞に記事が掲載された5月中旬から捕獲数が増加し、6月中旬及び下旬が最大捕獲数となった。気温の影響からか、7月上旬から捕獲数が減少した。

参考に、昨年度の月別捕獲数を表 3-2-3.5 に示した。

表 3-2-3.4 月別捕獲数（2019年度）

捕獲月	日平均気温(°C)*	捕獲数
5月 上旬	23.0	2
5月 中旬	25.2	15
5月 下旬	24.4	15
小計		32
6月 上旬	27.0	12
6月 中旬	25.6	18
6月 下旬	27.0	18
小計		48
7月 上旬	28.1	9
7月 中旬	29.2	8
7月 下旬	29.4	3
小計		20
計		100

\*気象庁(那覇)のデータ

表 3-2-3.5 月別捕獲数（2018年度）

捕獲月	捕獲数
6月	1
7月	5
8月*	16
9月	31
10月	24
11月	14
計	91

\*8月24日に新聞に記事が掲載された。

### c-2 捕獲個体データ

捕獲されたタイワンスジオは雄が62個体、雌が37個体、幼体（頭胴長50cm以下）が1個体であった。捕獲個体の計測値を表 3-2-3.6 に示す。雄の頭胴長は平均129.5cm、雌は平均130.4cmであった。個体の全長の最大は雄が235.3cm、雌が211.1cmであった。雄の体重は平均590.7g、雌は601.3gであった。また、捕獲された個体のうち、雄は頭胴長130cm、雌は150cmの個体が多い結果となった（図 3-2-3.1）。

各個体の計測値等のデータは本項巻末の表 3-2-3.14 に示した。

今年度及び昨年度に捕獲された雄の合計は89個体、雌は76個体となり、それらの計測値等を表 3-2-3.7 及び図 3-2-3.2 に示した。

表 3-2-3.6 捕獲個体の計測値

性別	個体数	頭胴長(cm)	尾長(cm)*	体重(g)
		平均	平均	平均
雄	62	70.0~191.2	18.6~48.1	75.1~1866.3
		129.5	33.1	590.7
雌	37	79.0~170.5	20.3~45.3	133.0~1385.9
		130.4	35.0	601.3
幼体	1	49.9	14.2	34.1
		-	-	-

\*尾が途中で切れているものについては平均値の算出に用いなかった。(雄5個体、雌2個体)

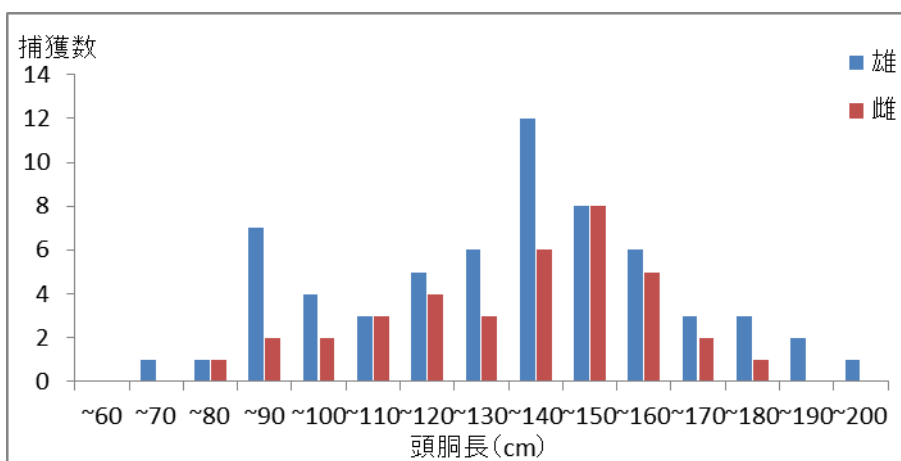


図 3-2-3.1 捕獲個体の雌雄別の頭胴長

表 3-2-3.7 捕獲個体の計測値 (2年分)

性別	個体数	頭胴長(cm)	尾長(cm)*	体重(g)
		平均	平均	平均
雄	89	68.7~191.2	18.6~48.1	75.1~1866.3
		126.8	33.9	581.0
雌	76	67.7~172.1	19.3~45.3	83.6~1437.0
		131.2	34.9	632.5

\*尾が途中で切れているものについては平均値の算出に用いなかった。(雄6個体、雌7個体)

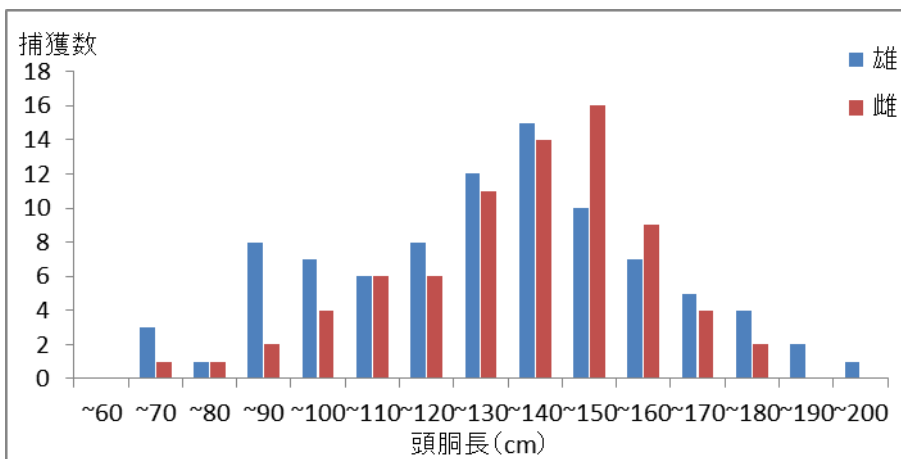


図 3-2-3.2 捕獲個体の雌雄別の頭胴長 (2年分)

### c-3 捕獲地点

市町村別の捕獲数及び捕獲地点を表 3-2-3.8、図 3-2-3.3 に示す。捕獲数が最も多い市町村はうるま市で 35 個体、次いで恩納村で 28 個体、沖縄市で 22 個体であった。捕獲地点の最北は恩納村瀬良垣、最南は北谷町伊平であった。恩納村瀬良垣は昨年度と同様に捕獲が多い地域であった。

北谷町の 1 地点については、昨年度は捕獲がなかったが嘉手納基地周辺の地点であり、この周辺で北谷町がハブ対策として設置しているトラップに捕獲されたこともあるため、新情報というわけではない。また、キャンプ・ハンセン内での捕獲も昨年度はなかったが、基地外ではあるがこの周辺での捕獲は昨年度もあった。捕獲者の話では、キャンプ・ハンセンでタイワンスジオを目撃したのは 2 回目（1 回目は 10 年前ぐらい）ということであったが、周辺の恩納村や金武町（昨年度に 6 個体捕獲）での捕獲が多いことから、キャンプ・ハンセン内でもかなりの数が生息していることが予想される。

また、昨年度は捕獲がなく今年度多く捕獲があった地域として、恩納村喜瀬武原がある（図 3-2-3.3）。区長の話によると、昨年度から目撃は多くされていたがそのヘビがタイワンスジオだということが分からなかったということであり、今年度急に増えたということではない。しかし、瀬良垣区と同様に 2~3 年前から見始めたということであり、後述の通り、分布域が北上及び拡大している可能性は高いと言える。

今年度及び昨年度の合計の捕獲数は 191 個体となり、それらの市町村別の捕獲数を表 3-2-3.9 に示した。うるま市、恩納村、沖縄市の 3 市村で全体の 8 割以上（計 155 個体、81.2%）を占める結果となった。

表 3-2-3.8 市町村別の捕獲数（2019 年度）

市町村	捕獲数
うるま市	35
恩納村	28
沖縄市	22
嘉手納町 <sup>*1</sup>	11
金武町 <sup>*2</sup>	2
読谷村	1
北谷町	1
計	100

<sup>\*1</sup> 弾薬庫地区、飛行場内を含む。

<sup>\*2</sup> キャンプ・ハンセン内を含む。

表 3-2-3.9 市町村別の捕獲数（2 年分）

市町村	捕獲数
うるま市	70 (36.6%)
恩納村	49 (25.7%)
沖縄市	36 (18.8%)
嘉手納町 <sup>*1</sup>	22 (11.5%)
金武町 <sup>*2</sup>	8 (4.2%)
読谷村	5 (2.6%)
北谷町	1 (0.5%)
計	191 (100%)

<sup>\*1</sup> 弾薬庫地区、飛行場内を含む。

<sup>\*2</sup> キャンプ・ハンセン内を含む。



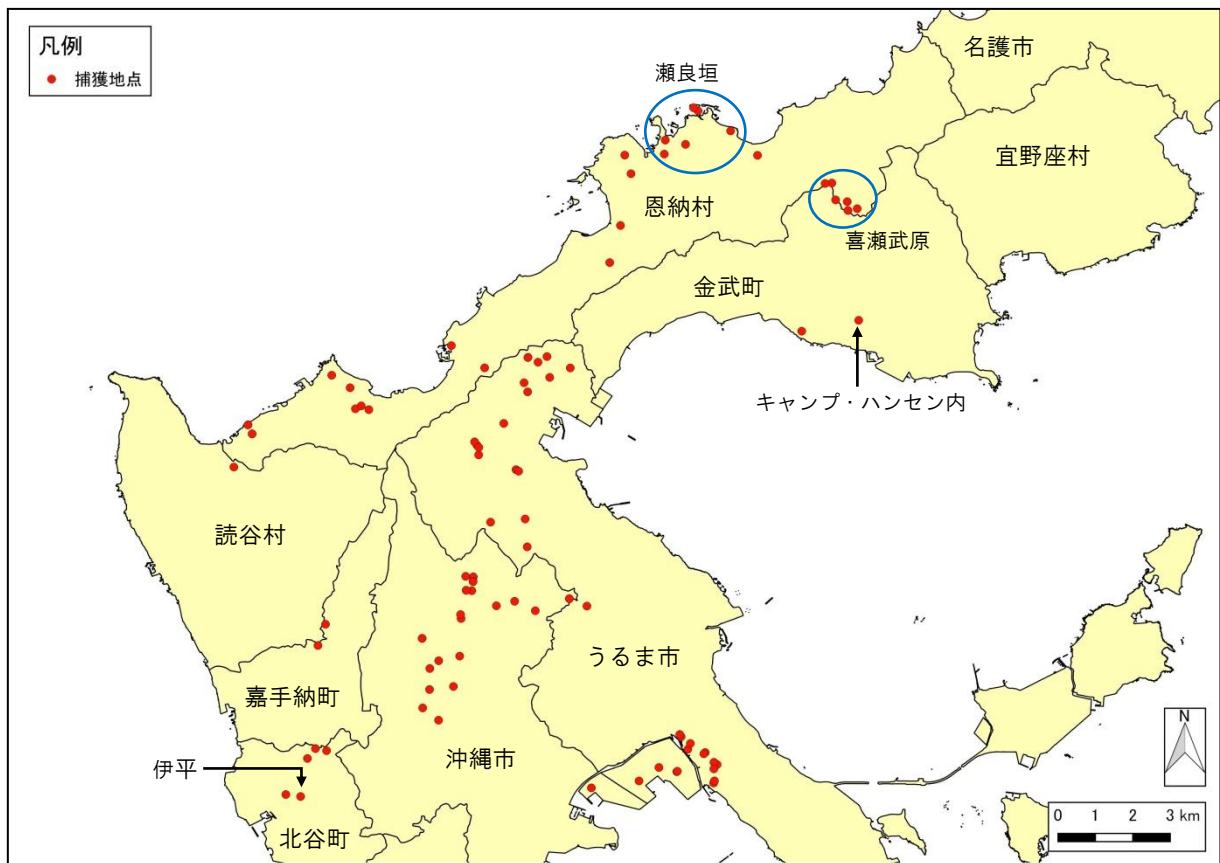


図 3-2-3.3 今年度の捕獲地点

今年度（2019 年度）及び昨年度（2018 年度）の捕獲地点、2011 年度に環境省が行った個体買い取りによる捕獲地点を図 3-2-3.4 に示す。環境省は 2012 年度にも買い取りを行ったが、捕獲地点の座標データが得られなかったため図示しなかった。ただし、2012 年度に金武町西部で捕獲が多かったこと以外は 2011 年度と比べて大きな変化はなかった。

2019 年度と 2018 年度の捕獲地点を比較すると、2019 年度に北西の恩納村喜瀬武原及び南西の嘉手納飛行場で捕獲が多かったことを除くと、大きな変化はない。一方、2019 年度及び 2018 年度と 2011 年度を比較すると、2019 年度及び 2018 年度は 2011 年度に捕獲がなかった恩納村北部（瀬良垣、喜瀬武原）で多数の捕獲があった。2011 年度の「分布中心部」（図 3-2-3.4 青色円）から外れたエリア（図 3-2-3.4 赤色円）で高密度に生息していることが明らかになり、分布域の北上及び拡大が示された。

また、この赤色円内には米軍基地（キャンプ・ハンセン）が含まれており、基地内の分布に関する情報は集まりにくい。しかし、基地を囲うようにその周辺地域で多数の捕獲があったことから、基地内にもかなりの数が生息している可能性は高いと考えられ、この地域からのさらなる分布域の北上が懸念される。

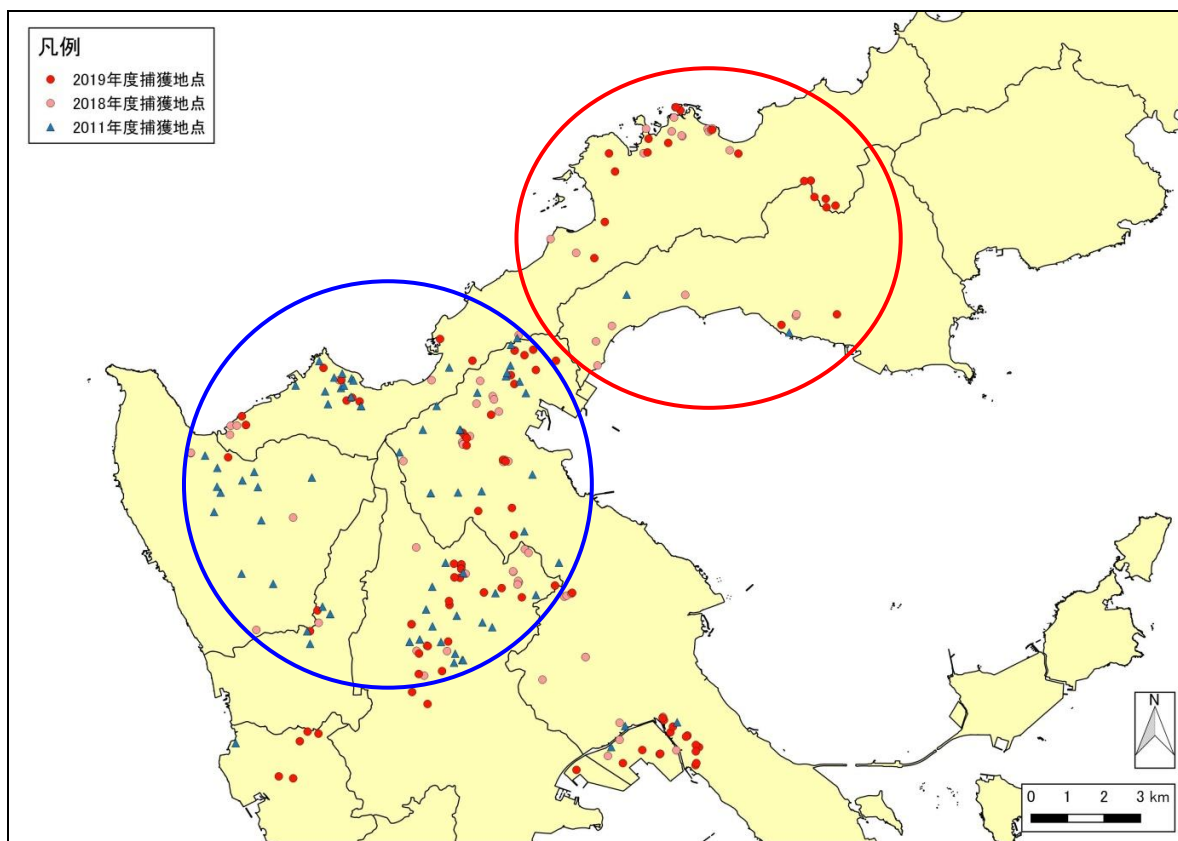


図 3-2-3.4 今年度及び過年度の捕獲地点

#### c-4 捕獲環境

第 6 回及び第 7 回自然環境保全基礎調査の植生調査の結果を参考に、捕獲した場所の環境を「市街地」、「農耕地」、「自然環境」の 3 つに区分した。また、これら以外の環境として、「基地」を加えたところ、市街地が 25 件、農耕地が 50 件、自然環境が 14 件、基地が 11 件となった(表 3-2-3.10)。また、昨年度の結果も合わせると、市街地が 41 件 (22.0%)、農耕地が 90 件 (48.4%)、自然環境が 32 件 (17.2%)、基地が 23 件 (12.4%) となり、農耕地での捕獲が多い結果となったがそれ以外の環境でも満遍なく捕獲されており、タイワンスジオはあらゆる環境に生息しているということが示された。

表 3-2-3.10 にある捕獲環境について、昨年度の結果も合わせて、「人家周辺」、学校を含めた「事業所周辺」、畑周辺の小屋やビニールハウス等を含めた「畑・家畜小屋等」、「道路」及び「その他」に再分類すると、図 3-2-3.5 に示す通りとなり、人が長時間を過ごす人家周辺や、人の職場である事業所周辺及び畑・家畜小屋等が大部分を占める結果となった。これらのことから、主に日中に活動するタイワンスジオは人によく目撃されていると言える。個体買い取りのような報奨金制度がなくても住民による見つけ捕りの協力を得ることができれば、毎年ある程度の個体数の捕獲は可能であると考えられる。

表 3-2-3. 10 環境別の捕獲数

環境区分	捕獲環境	捕獲数
市街地	人家周辺	9
	事業所周辺	9
	学校	2
	畑	1
	牛小屋	1
	倉庫	1
	道路	1
	空き地	1
	小計	25
農耕地	事業所周辺	10
	道路	10
	畑	7
	人家周辺	6
	ヤギ小屋	5
	ビニールハウス	4
	小屋	3
	牛小屋	2
	鳥小屋	2
	草地	1
小計	50	
自然環境	事業所周辺	6
	草地	3
	道路	2
	倉庫	2
	畑	1
小計	14	
基地	人家周辺	7
	道路	3
	学校	1
小計	11	
計	100	

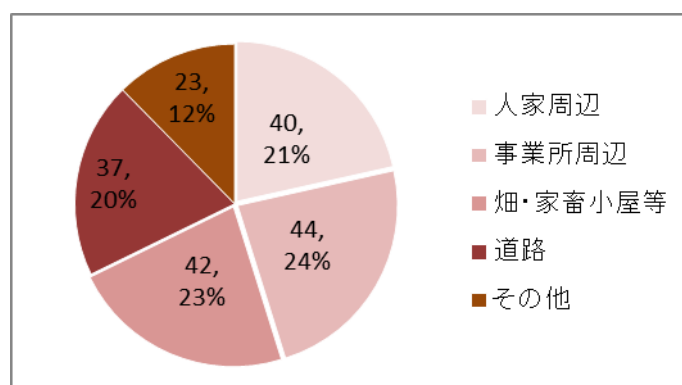


図 3-2-3. 5 環境別の捕獲割合 (2年分)

#### d) 消化管内容物

消化管（胃と腸）内容物を調べた 100 個体のうち、51 個体は何らかの内容物を持っていた。そのうち、胃のみに内容物があったのが 1 個体、腸のみに 35 個体、胃と腸の両方に内容物があったのが 15 個体であった（図 3-2-3.6）。昨年度と比べると、腸に内容物を持つ個体が多い結果となった。

消化管内容物の詳細を表 3-2-3.11 に示す。種同定が可能であったものでは、クマネズミ、ジャコウネズミが確認された。また、昨年度は出現しなかった鳥類（6 例）が確認された。

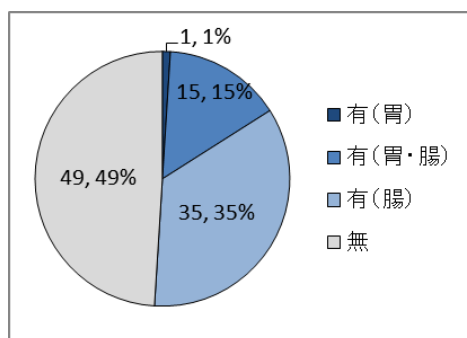


図 3-2-3.6 消化管内容物の保持率

表 3-2-3.11 捕獲個体とその消化管内容物

個体情報					消化管内容物	
個体No.	性別	頭胴長(cm)	尾長(cm)	体重(g)	摘出部位	種
1	雌	140.4	38.2	703.0	腸	何らかの毛
2	雌	127.1	33.0	520.8	腸	何らかの毛
4	雄	125.0	34.6	466.0	腸	何らかの毛
5	雌	128.7	33.4	548.2	腸	何らかの毛
6	雄	170.3	41.0	972.9	腸	何らかの毛
8	雄	149.6	37.8	605.9	腸	何らかの毛
11	雌	147.9	38.5	652	腸	何らかの毛
13	雄	134.1	38.2	524.6	腸	鳥類の卵殻
14	雄	104.8	27.0	270.8	腸	何らかの毛
15	雌	106.0	20.3	384.2	胃	クマネズミ
					腸	何らかの毛
17	雄	141.2	36.6	666.0	腸	何らかの毛
20	雄	94.8	27.4	242.4	胃	鳥類の雛5羽
					腸	何らかの毛
21	雄	96.1	26.3	284.6	胃	鳥類4羽
					腸	何らかの毛
22	雄	130.4	35.7	487.6	胃	おそらくクマネズミ
					腸	何らかの毛
23	雌	124.4	34.9	513.2	腸	何らかの毛
29	幼体	49.9	14.2	34.1	胃	鳥類と思われる毛
33	雌	145.6	38.0	606.6	胃	クマネズミ2匹
					腸	何らかの毛
34	雄	127.0	36.4	500.2	胃	おそらく哺乳類
					腸	何らかの毛
36	雌	144.6	37.5	557.0	腸	何らかの毛
38	雄	133.2	36.5	561.9	腸	何らかの毛
40	雄	122.1	32.6	449.2	腸	何らかの毛
45	雌	112.2	31.8	386.1	胃	鳥類の雛5羽、クマネズミ5匹
					腸	何らかの毛
46	雄	153.5	41.3	1136.4	腸	何らかの毛
47	雄	155.1	40.5	966.4	腸	何らかの毛
48	雄	191.2	42.0	1866.3	腸	何らかの毛
49	雌	133.3	34.9	531.8	腸	何らかの毛
51	雌	145.8	41.7	613.1	胃	おそらくクマネズミ
					腸	何らかの毛
53	雄	143.5	38.9	663.5	腸	何らかの毛
54	雄	115.6	31.4	418.6	腸	哺乳類と思われる肉片及び毛
56	雄	186.9	46.0	1588.2	腸	何らかの肢
57	雄	112.1	31.5	400.3	胃	おそらくクマネズミ
					腸	何らかの毛
60	雄	149.0	39.9	816.1	腸	何らかの毛
62	雌	155.0	41.5+	817.5	腸	何らかの毛
63	雄	132.8	35.9	573.0	腸	何らかの毛
64	雄	133.9	37.8	537.1	腸	何らかの毛
65	雌	136.5	34.2	581.4	腸	何らかの毛
67	雄	133.0	26.0+	488.7	腸	何らかの毛
71	雌	170.5	40.6	922.6	腸	何らかの毛
74	雌	152.1	38.2	1046.9	胃	おそらくクマネズミ
					腸	何らかの毛
78	雌	149.0	41.6	1253.3	腸	何らかの毛
79	雌	150.9	39.3	1202.3	腸	何らかの毛
80	雄	138.5	36.9	669.3	胃	トガリネズミ科またはネズミ科
					腸	何らかの毛
83	雌	158.8	39.5	893.4	胃	おそらくクマネズミ、鳥類の卵
					腸	何らかの毛
86	雌	90.0	16.2+	185.5	腸	何らかの毛
87	雄	146.5	39.1	684.8	胃	クマネズミ
					腸	何らかの毛
88	雄	87.9	23.3	135.1	腸	何らかの毛
92	雄	154.0	35.7+	1181.8	腸	何らかの毛
94	雄	120.5	32.5	360.0	腸	何らかの毛
96	雄	163.5	41.0	680.9	胃	トガリネズミ科またはネズミ科
					腸	何らかの毛
98	雄	143.7	38.2	990.7	胃	ジャコウネズミ3匹
					腸	何らかの毛
100	雌	79.0	23.1	133.0	腸	何らかの毛



今年度及び昨年度に出現した内容物（腸内から確認された毛は除く）を表 3-2-3. 12 に示す。哺乳類が 28 例（77. 8%）、鳥類が 6 例（16. 7%）、不明が 2 例（5. 6%）となり、哺乳類が約 8 割を占める結果となった。また、哺乳類については、その半数の 14 例でクマネズミが確認された。以上の結果から、タイワンスジオは哺乳類、特にクマネズミをより好む可能性が示唆されたが、単に鳥類よりも哺乳類のほうが捕食が容易であることや、タイワンスジオの活動圏内にクマネズミが高密度に生息していることが、クマネズミの出現数が高い理由であるとも考えられる。しかし、個体 No. 45 の胃内容物を見ると、1 個体のタイワンスジオから 5 匹のクマネズミが確認されており、巣穴を襲って捕食したものと予想される。クマネズミを好んで探索し捕食した可能性があると考えられるが、そのような嗜好性を明らかにするにはより多くのサンプルが必要である。

表 3-2-3. 12 消化管内容物とその出現数

内容物		出現数	
哺乳類	ネズミ科(齧歯目)	クマネズミ	14
		マウス	1
		不明	3
	トガリネズミ科(トガリネズミ形目)	ジャコウネズミ	3
		ワタセジネズミ	2
		不明	1
	ネズミ科またはトガリネズミ科		2
	不明		2
小計		28	
鳥類		6	
不明		2	
計		36	

**沖縄県 外来種対策事業**

# 特定外来生物 タイワンスジオ



無害ですが、咬まれることが  
あるのでご注意ください。

全長：1.8～2.7 m  
体色：灰黄色～黄褐色  
生態等：  
・主に昼間に活動する  
・木に登る



問合せ先  
一般財団法人 沖縄県環境科学センター (担当: 末吉) Tel: 080-8576-0631  
現在の買い取り数: <https://www.okinawa-ikimono.com/sujio/>  
(発注元: 沖縄県環境部自然保護課)

**1頭 5,000円で買い取ります**

**買い取り期間：令和元年8月30日（金）まで**

**100頭に達し次第終了します**

捕獲を希望される方へ

事前に、捕獲従事者として登録する必要があります。

登録用紙及び詳細は裏面に記載されていますので、必ずお読みください。

タイワンスジオをはじめとする特定外来生物は、外来生物法により保管、運搬等が厳じられています。外来生物法に違反した場合、個人の場合最高で3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金が科せられます。捕獲従事者への登録後に、捕獲をお願いします。

特定外来生物であるタイワンスジオは台湾原産の大型ヘビで、1970年代末に沖縄島中部に定着し、現在も分布域を拡大しています。哺乳類や鳥類を捕食することから、沖縄島の希少な野生生物や生態系への影響が危惧されています。

昨年度、91頭が捕獲された結果から、タイワンスジオは本島中部に多く生息していることが明らかになりました。

今年度も、更なる生息情報収集のため、期間限定でタイワンスジオを1頭5,000円で買い取ることにしました。地域の皆さんのご協力をお願いします。

タイワンスジオの買い取りは今年度限定で行うものです。飼育や繁殖は法律で禁じられており、罰則も適用されますので、絶対に行わないでください。

買取手順

- ① 捕獲従事者へ登録する\* (下記登録用紙またはWebページにて)
- ② 沖縄県内で野生のタイワンスジオを捕獲する
- ③ 捕獲したその日に下の連絡先に電話する (受付時間 平日8:30～17:30)

連絡先: 沖縄県環境科学センター 080-8576-0631

連絡後、回収日(毎週金曜日、それまでは冷凍保存してください)に担当者が登録先の住所に伺い、その場で買い取りとなります。受領書の授受がありますので、印鑑をご用意ください。

\*平成30年に登録した方は再度登録する必要はありません。ただし、住所変更等があればご連絡ください。

捕獲事項

- ・ 事前に捕獲従事者として登録が必要で、登録には成人であることが条件です。
- ・ 損害保険をかけていません。捕獲や取扱い時のケガなどについては、全て自己責任となります。
- ・ 捕獲方法、日時、場所についての聞き取りを行うので、記録をお願いします。
- ・ 捕獲後すぐに個体を袋等に入れ、冷凍庫で保存してください。(捕獲等により調査に利用することが無いと判断したものは、買い取り対象外になる場合がありますので、ご了承ください。)
- ・ 計測を行うので、捕獲個体は切断しないで行ってください。
- ・ 捕獲したヘビがタイワンスジオでない場合、朝現金はお支払いできませんので、ご了承ください。
- ・ 捕獲個体の回収日は毎週金曜日です。それまでは冷凍保存しておいてください。
- ・ 法令違反等については、関係機関への通報など、適切に対応いたします。

以下のAまたはBの方法で、捕獲従事者への登録をお願いします。

A 下の登録用紙に必要事項を記入し、このチラシをファックスで送信してください。

送先: (一財)沖縄県環境科学センター FAX 098-875-1943

フリガナ	性別	生年月日
名前	男 女	昭和 平成 年月日
住所	電話番号 (自宅/携帯)	

1. 私は本作業中に発生した損害について、沖縄県および一般財団法人沖縄県環境科学センターに一切の責任を負いません。

2. 私はハブ等捕獲に関する公罪に従事していません。

3. 野生個体のみを引き渡します。

捕獲事項を読み、上記1～3に同意の上、署名します。

令和元年 月 日 ご署名 印

B 下記Webページの登録フォームにて、必要事項を入力してください。

<https://www.okinawa-ikimono.com/sujio/>

右の二次元バーコードを読み取るとWebページに接続できます。




図 3-2-3.7 作成したチラシ



調査研究のための野生個体を  
**1頭5000円で買い取ります！** 沖縄県外来種対策事業

細長の頭  
(ハブの頭は三角形)

尾に黒いスジ

目の後ろに黒いスジ

無毒ですが、咬まれることがあるのでご注意ください。

全長: 1.8~2.7m  
 体色: 灰黄色~黄褐色  
 生態等: 主に昼間に活動する  
 木に登る

特定外来生物

## タイワンスジオ

買取期間 ▶ 令和元年8月30日(金)まで

— 100頭に達し次第終了します —

現在の買取数 **95 頭**

買取手順・確認事項を読み理解しました。捕獲従事者への登録をします。

登録する。  登録しない。

---

捕獲従事者への登録

名前: 氏  名

シ  メイ

住所:

性別:  男性  女性

生年月日:  年  月  日

電話番号:

1. 私は本作業中に発生した損害について、沖縄県および一般財団法人沖縄県環境科学センターに一切の責任を問いません。
2. 私はハブ等捕獲に関する公務に従事していません。
3. 野生個体のみを引き返します。

確認事項を読み、上記1~3に同意します。

同意します。  同意しません。

このサイトで送信されたお客様の情報は、暗号化通信によって保護されています。

図 3-2-3.8 作成した Web ページ (一部)

表 3-2-3.13(1) 捕獲個体データ

個体No.	捕獲日	捕獲地点	性別	頭胴長(cm)	尾長(cm)	体重(g)	消化管内容物
1	2019年5月11日	うるまし市石川嘉手苅	雌	140.4	38.2	703.0	有(腸)
2	2019年5月8日	恩納村恩納	雌	127.1	33.0	520.8	有(腸)
3	2019年5月14日	うるまし市州崎	雄	70.0	18.6	75.1	無
4	2019年5月16日	うるまし市勝連南風原	雄	125.0	34.6	466.0	有(腸)
5	2019年5月15日	恩納村恩納	雌	128.7	33.4	548.2	有(腸)
6	2019年5月14日	うるまし市栄野比	雄	170.3	41.0	972.9	有(腸)
7	2019年5月16日	うるまし市石川楚南	雌	140.1	35.2	589.5	有(腸)
8	2019年5月16日	うるまし市石川楚南	雄	149.6	37.8	605.9	有(腸)
9	2019年5月16日	沖繩市池原	雌	133.7	35.2	732.6	有(腸)
10	2019年5月17日	沖繩市池原	雄	150.0	36.4+	659.2	有(腸)
11	2019年5月23日	沖繩市池原	雌	147.9	38.5	652	有(腸)
12	2019年5月16日	恩納村瀬良垣	雄	73.4	20.7	105.6	有(腸)
13	2019年5月21日	恩納村山田	雄	134.1	38.2	524.6	有(腸)
14	2019年5月19日	うるまし市石川	雄	104.8	27.0	270.8	有(腸)
15	2019年5月24日	うるまし市川崎	雌	106.0	20.3	384.2	有(胃・腸)
16	2019年5月22日	うるまし市勝連南風原	雄	88.8	25.1	160.0	有(腸)
17	2019年5月14日	うるまし市川田	雄	141.2	36.6	666.0	有(腸)
18	2019年5月18日	うるまし市勝連南風原	雌	107.3	30.0	334.8	無
19	2019年5月28日	恩納村瀬良垣	雄	138.5	36.7	760.0	有(腸)
20	2019年5月30日	うるまし市勝連南風原	雄	94.8	27.4	242.4	有(胃・腸)
21	2019年5月27日	うるまし市勝連南風原	雄	96.1	26.3	284.6	有(胃・腸)
22	2019年5月28日	沖繩市知花	雄	130.4	35.7	487.6	有(胃・腸)
23	2019年5月23日	うるまし市石川嘉手苅	雌	124.4	34.9	513.2	有(腸)
24	2019年5月15日	沖繩市白川	雄	148.5	40.1	660.1	有(腸)
25	2019年5月25日	沖繩市白川	雌	155.8	43.2	859.6	無
26	2019年5月28日	嘉手納町屋良	雄	187.2	48.1	1158.9	無
27	2019年6月6日	北谷町伊平	雌	139.2	38.1	667.6	無
28	2019年6月5日	恩納村前兼久	雌	113.0	31.5	416.3	無
29	2019年6月4日	恩納村瀬良垣	幼体	49.9	14.2	34.1	有(胃・腸)
30	2019年6月4日	恩納村恩納	雌	109.0	30.0	259.2	無
31	2019年6月2日	恩納村安富祖	雄	80.3	22.2	127.6	有(腸)
32	2019年6月3日	恩納村喜瀬武原	雄	119.1	36.5	444.5	無
33	2019年6月6日	うるまし市石川	雌	145.6	38.0	606.6	有(胃・腸)
34	2019年6月5日	うるまし市石川嘉手苅	雄	127.0	36.4	500.2	有(胃・腸)
35	2019年5月27日	恩納村真栄田	雄	145.0	36.5	714.1	有(腸)
36	2019年5月27日	恩納村真栄田	雌	144.6	37.5	557.0	有(腸)
37	2019年6月6日	うるまし市勝連南風原	雌	96.0	25.5	214.2	無
38	2019年6月7日	うるまし市伊波	雄	133.2	36.5	561.9	有(腸)
39	2019年6月12日	沖繩市海邦町	雄	100.3	29.4	278.3	無
40	2019年6月9日	沖繩市知花	雄	122.1	32.6	449.2	有(腸)
41	2019年5月7日	嘉手納町空軍基地	雄	174.1	40.9+	1026.7	無
42	2019年5月15日	嘉手納町空軍基地	雄	122.2	33.5	488.4	無
43	2019年5月21日	嘉手納町空軍基地	雌	116.0	28.5	322.2	無
44	2019年5月23日	嘉手納町空軍基地	雄	121.0	33.1	337.3	無
45	2019年6月8日	うるまし市石川	雌	112.2	31.8	386.1	有(胃・腸)
46	2019年6月13日	うるまし市西原	雄	153.5	41.3	1136.4	有(腸)
47	2019年6月14日	沖繩市池原	雄	155.1	40.5	966.4	有(腸)
48	2019年6月14日	沖繩市池原	雄	191.2	42.0	1866.3	有(腸)
49	2019年6月15日	恩納村瀬良垣	雌	133.3	34.9	531.8	有(腸)
50	2019年6月20日	恩納村喜瀬武原	雄	116.5	31.8	374.3	有(腸)
51	2019年6月18日	うるまし市石川	雌	145.8	41.7	613.1	有(胃・腸)
52	2019年6月19日	恩納村山田	雌	82.8	23.8	139.7	無
53	2019年6月19日	うるまし市石川	雄	143.5	38.9	663.5	有(腸)
54	2019年6月14日	沖繩市倉敷	雄	115.6	31.4	418.6	有(腸)
55	2019年6月18日	沖繩市知花	雄	154.5	40.0+	952.9	無
56	2019年6月18日	沖繩市知花	雄	186.9	46.0	1588.2	有(腸)
57	2019年6月17日	沖繩市知花	雄	112.1	31.5	400.3	有(胃・腸)
58	2019年6月18日	沖繩市登川	雄	134.5	37.0	526.4	無
59	2019年6月17日	嘉手納町弾薬庫地区	雄	161.3	43.4	1015.8	有(腸)
60	2019年6月17日	嘉手納町空軍基地	雄	149.0	39.9	816.1	有(腸)
61	2019年6月18日	嘉手納町空軍基地	雌	163.4	45.3	908.6	有(腸)
62	2019年6月19日	嘉手納町空軍基地	雌	155.0	41.5+	817.5	有(腸)
63	2019年6月25日	読谷村長浜	雄	132.8	35.9	573.0	有(腸)
64	2019年6月26日	うるまし市勝連南風原	雄	133.9	37.8	537.1	無
65	2019年6月25日	沖繩市池原	雌	136.5	34.2	581.4	有(腸)

表 3-2-3.13(2) 捕獲個体データ

66	2019年6月27日	沖縄市池原	雌	135	35.2	747.4	無
67	2019年6月27日	沖縄市池原	雄	133.0	26.0+	488.7	有(腸)
68	2019年6月25日	沖縄市知花	雄	176.2	44.1	1231.8	無
69	2019年6月26日	うるま市石川	雄	86.0	23.0	192.8	無
70	2019年6月24日	恩納村仲泊	雄	85.9	25.6	181.1	無
71	2019年6月24日	恩納村山田	雌	170.5	40.6	922.6	有(腸)
72	2019年6月25日	恩納村瀬良垣	雄	134.7	36.6	527.5	無
73	2019年6月21日	恩納村喜瀬武原	雄	90.8	26.1	192.8	無
74	2019年6月27日	恩納村喜瀬武原	雌	152.1	38.2	1046.9	有(胃・腸)
75	2019年6月27日	恩納村喜瀬武原	雄	87.4	26.2	171.6	無
76	2019年6月24日	金武町金武	雌	114.2	33.4	335.2	無
77	2019年6月23日	恩納村山田	雌	142.5	39.0	643.4	無
78	2019年6月28日	恩納村恩納	雌	149.0	41.6	1253.3	有(腸)
79	2019年6月30日	うるま市勝連南風原	雌	150.9	39.3	1202.3	有(腸)
80	2019年7月1日	うるま市石川	雄	138.5	36.9	669.3	有(胃・腸)
81	2019年6月28日	沖縄市知花	雄	155.7	39.6	833.8	無
82	2019年7月2日	うるま市川田	雄	135.2	36.5	649.7	無
83	2019年7月3日	うるま市勝連南風原	雌	158.8	39.5	893.4	有(胃・腸)
84	2019年7月4日	恩納村瀬良垣	雄	87.0	24.3	140.9	無
85	2019年7月5日	沖縄市松本	雄	166.5	42.6	1056.6	無
86	2019年7月5日	うるま市石川伊波	雌	90.0	16.2+	185.5	有(腸)
87	2019年7月8日	嘉手納町空軍基地	雄	146.5	39.1	684.8	有(胃・腸)
88	2019年7月7日	恩納村真栄田	雄	87.9	23.3	135.1	有(腸)
89	2019年7月11日	沖縄市池原	雄	98.0	28.8	304.7	無
90	2019年7月9日	うるま市石川嘉手苅	雄	131.5	37.1	499.2	無
91	2019年7月14日	金武町キャンプ・ハンセン	雌	132.4	35.9	506.0	無
92	2019年7月19日	嘉手納町空軍基地	雄	154.0	35.7+	1181.8	有(腸)
93	2019年7月13日	うるま市石川	雄	104.9	29.5	257.3	無
94	2019年7月15日	うるま市勝連南風原	雄	120.5	32.5	360.0	有(腸)
95	2019年7月16日	うるま市勝連南風原	雌	164.0	43.2	1385.9	無
96	2019年7月22日	うるま市石川	雄	163.5	41.0	680.9	有(胃・腸)
97	2019年7月19日	恩納村喜瀬武原	雄	114.6	31.0	329.1	無
98	2019年7月26日	うるま市川田	雄	143.7	38.2	990.7	有(胃・腸)
99	2019年7月20日	恩納村真栄田	雌	82.4	24.4	134.7	無
100	2019年7月21日	恩納村真栄田	雌	79.0	23.1	133.0	有(腸)

尾長の「+」は尾が途中で切れていることを示す。